



Trueflow SE  
EQUIOS  
Pre4m

User Report

水上印刷株式会社

## なぜ、RIPの操作は難しい？ ユーザーインターフェースを改革せよ！

水上印刷の守備範囲は広く、特に高付加価値印刷物では定評がある。しかも、現状に甘んじることなく、常に進化し続けているのが特長で、最近は商品やサービスの企画・マーケティングから配送、在庫管理までをトータルで受注し、顧客の経営を支援する「ワンストップサービス」に力を入れる。EQUIOS-Pre4mは、そのために必要な一元管理に貢献するツールになりそうだ。



取締役管理部長  
荻野 正彦氏



管理部 チーフ  
新元 良磨氏



制作室 課長  
大谷 洋行氏



制作室  
吉野 英介氏

### 「企業支援パートナー」として活躍

水上印刷の取扱品目は、ポスターやDMなどの商業印刷物から出版印刷、パッケージ印刷、カード印刷、医薬品印刷など、幅広い分野にわたる。最先端設備を導入した多摩工場（東京都西多摩郡日の出町）では、厚紙から極薄紙まで、最高レベルの印刷・加工が行われている。

同社の存在感を際立たせているのが技術力の高さで、カラー複写機やプリンターを評価するためのテストチャートの世界シェアは80%を超える。

色の再現性には特にこだわり、業界に先駆けてカラーマネジメントシステム(CMS)を構築した。社内にインク調肉システムを備え、特色の色管理でも $\Delta E < 3$ を実現している。

同社の強みはそれだけではない。荻野

氏は「すでに品質やスピードだけでは、差別化できない状況になっています。このため当社では、3、4年前から業態変革に取り組み、ワンストップサービスという新しいビジネスモデルを構築しました」と語る。

クライアントにとっては、信頼できる印刷会社に企画・デザインから配送までを一括して委託できれば、結果的にコストダウンにつながるため、同社に対する期待は大きい。

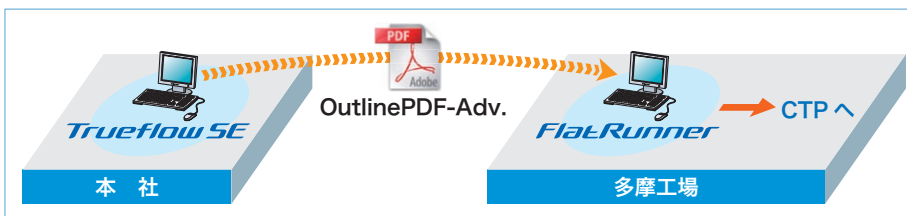
「企業支援パートナーを目指す当社にとっては、営業担当者がいかに顧客の課題を見つけてこられるかが生命線です。それを実現しようとするれば、第一線で活躍する営業担当者のヒアリング能力を高めることが大前提になりますので、2009年の初めから若手営業を対象にした研修を重ねています」（荻野氏）。

### 一元管理で データトラブルやレ版を低減

水上印刷では、本社で制作・製版までの作業を行い、多摩工場で印刷・後加工を行う。2サイト間はネットワーク接続されており、本社側でデータを作り上げ、下版のタイミングでTrueflow SEから面付け済みRIPデータ(OutlinePDF-Adv.)を出力し、多摩工場のFlatRunner側のHot Folderへ直接入力される仕組みになっている。

多摩工場ではFlatRunnerのオペレーションは行われておらず、刷版出力は本社で行うリモートキューイングの形態を取っている。

製造部門の総合的な工程管理に当たる新元氏は、「以前は、多摩工場でCTPのオペレーターが時間をかけて面付け処理



を行い、最終的な版を出力していました。ワンストップサービスの効果を高めるために、1年半ほど前にデータ類は川上で一元管理する方針に切り替えました。今では管理部門はすべて本社に集約し、多摩工場では、とにかく生産能力を上げることに全精力を注いでいます」と語る。

CTPのRIP部分を前工程（本社サイド）に移行したことにより、データのトラブルやヤレ版が減少し、印刷機の生産性も向上した。そんな同社が「EQUIOS-Pre4m（イクオス・プリフォーム）」の試験的な運用を始めたのは、2010年6月のことである。

## シームレスな面付けが可能に

まず、作業効率や特徴、改善ポイントなどを探るため、台ごとに面付けが必要な小冊子など4種類の端物でTrueflow SEと比較、検討してみた。

当初、EQUIOS-Pre4mのオペレーションに不慣れな点と、同社が印刷安定のために付与する捨てベタなどのアクセサリ登録に手間が掛かり、使い慣れたTrueflow SEよりも作業時間を要したこともあった。

一方、テスト運用の段階で、EQUIOS-Pre4mは①オペレーションが簡単で、専門のオペレーターに担当させなくてもよい、②プレビュー機能が拡大表示に対応しているため、可視性が高く、画面上での確認が可能になる、③Trueflow SEに慣れていない人にも使いやすいGUIになっている、などの点に手応えを感じ、7月初旬から実運用に入った。

オペレーターは、かつてPODのオペレーションに当たっていた吉野氏である。

「当社の仕事は書籍からポスター、ラベルなど多岐にわたりますので、今までは面

付け処理が大変でした。EQUIOS-Pre4mを入れてから、新たなGUIによりシームレスな面付けが可能になったことが一番のメリットです。プルダウンメニューの選択で、用紙サイズや印刷機の変更によって発生するテンプレートの変更指示による作業負荷が軽減されたのも大きな成果です」

EQUIOS-Pre4mの検索機能はジョブ名・タグ付けで検索できるようになっており、これによって必要なジョブにたどり着くまでの時間が飛躍的に短縮されたこと、ジョブ数にかかわらず検索が速いことも評価する。

## MISとの連動でさらなる効率アップを

吉野氏は「これからは、アクセサリも付与されたテンプレートを刷版／用紙テンプレート管理で充実させ、管理することがポイントになってくると思います」と言い、EQUIOS-Pre4mに合わせて仕様書を設計・運用すれば、さらに効果が上がるのではないかと提言する。

制作部門を指揮する大谷氏がそれを補足して、「従来は、用紙の変更指示が入るとわざわざ面付けソフトを立ち上げ、変更を加えた後で、修正したデータを再保存し、それをまた呼び出すというように二重、三重の手間が掛かっていました。EQUIOS-Pre4mでは操作性の向上によって簡単に操作できるようになっていますので、作業の負荷が軽減され、時間的なメリットも生まれています」と語る。

水上印刷では、新規の仕事が全仕事量の3分の2を占める。今後、新たなジョブに関してはすべてをEQUIOS-Pre4mに移行する予定だ。

EQUIOS-Pre4mへの要望として、新元氏は「ジョブ名やテンプレート名が変更できるようになれば、より機能的に使

えるようになると思います。また、最近では短納期のものも増加しており、これらを効率的に印刷する上で、「折りの付け合わせ」機能を持つTrueflow SE Ver7.2に期待しています。さらに、アクセサリなどもプラスしてバージョンアップを図り、面付け情報をMISから取り込めるようになれば、当社が目指すミスやロスの撲滅に貢献できそうです」と期待を込めた。

Trueflow SE Ver7.2とEQUIOS-Pre4mを中核にしたフローにより、さらなる効率アップを図るのが当面の目標。それに引き続き、運用中のMIS「ひだりうちわ」にEQUIOS-Pre4mの面付けモジュールを搭載して連動させることにより、面付け設計の二度手間を省き、後工程までを含めたトータル管理でさらに効率化を図る予定だ。

荻野氏は「今までのRIPは専門性が高く、非常に複雑な作業を必要としていました。もっとユーザーインターフェースが良くなれないか、以前から大日本スクリーンさんをお願いしてきました。今回のEQUIOS-Pre4mは、その第一弾だと思います。今後、さらなる改善を期待しています」と結んだ。

高品質な印刷物をスピーディーに、かつ最適な状態で仕上げる知識とノウハウを全セクションで共有している水上印刷。今後の同社の発展に、Trueflow SE Ver7.2とEQUIOS-Pre4mが少なからず貢献することは間違いなさそうだ。



### 水上印刷株式会社

住所 東京都新宿区西新宿5-14-3  
代表者 代表取締役 水上 光啓  
創業 1946年  
従業員数 98人

## SCREEN

### 株式会社メディアテクノロジー ジャパン

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-14 靖国九段南ビル <http://www.mtjn.co.jp/>

東京支店 / 03(3237)3111(代) 大阪支店 / 06(6268)6600(代) 名古屋支店 / 052(218)6400(代)  
福岡支店 / 092(436)7081(代) 北海道営業所 / 011(726)0707(代) 東北営業所 / 022(224)1741(代)  
新潟営業所 / 025(241)0112(代) 静岡営業所 / 054(281)0955(代) 長野営業所 / 026(224)5770(代)  
金沢営業所 / 076(292)2345(代) 京都営業所 / 075(671)1145(代) 中国営業所 / 082(264)6451(代)  
四国営業所 / 087(837)8151(代)

### 大日本スクリーン製造株式会社 メディア&プレジジョンテクノロジーカンパニー

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る4丁目  
<http://www.screen.co.jp/>

※本カタログは、弊社のFairdot 2で印刷しています。  
※本カタログは、弊社の千都フォントを使用しています。  
※本カタログの各商品名は各社の商標・登録商標です。  
※本カタログに掲載している商品は、日本国内仕様です。